

会 告

第 93 回講演大会講演募集案内

申込 (原稿同時提出) 締切り 昭和52年 1月14日 (金)

本会は第92回講演大会を昭和52年4月4日(月), 5日(火), 6日(水)の3日間東京大学において開催することになりました。下記要領により講演募集をいたしますので、奮ってご応募下さるようご案内いたします。講演希望者は昭和52年1月14日(金)までに申込用紙と講演概要原稿を提出して下さい。

講演ならびに申込要領

1. 講演内容 鉄鋼の学術、技術に直接関連あるオリジナルな発表
2. 講演時間 1 講演につき講演15分
3. 講演前刷原稿
 - 1) 原稿は目的、成果、結論が理解しやすいよう簡潔にお書き下さい。
 - 2) 設備技術に関する原稿には計画にあつての基本方針、特色、成果等が必ず盛り込まれているものとする。
 - 3) 商品名等は原則としてご遠慮願います。
 - 4) 謝辞は省略して下さい。
 - 5) 原稿枚数は原則として所定のオフセット用原稿用紙(1600字詰)1枚とします。しかし内容的に止むを得ない場合は2枚までを認めます。(いずれも表、図、写真を含む)原稿が2枚にわたり執筆された場合には編集委員会で査読のうえ1枚にまとめなおし願うことがありますのであらかじめご了承下さい。
 - 6) 原稿は所定の用紙にタイプ印書あるいは黒インキまたは墨を用い手書きとして下さい。
 - 7) 単位は「鉄と鋼」投稿規程に準じます。
 - 8) 図表の説明は和文とします。
 - 9) 原稿用紙は(次ページ)のように有償頒布いたしております。
4. 講演申込資格 講演者は本会会員に限ります。非会員の方で講演を希望される方は、所定の入会手続きを済ませたうえ、講演申込みをして下さい。また共同研究者で非会員の方も入会手続きをされるよう希望いたします。
5. 講演申込制限 講演申込みは1人3件以内といたします。
6. 申込方法 「鉄と鋼」No. 7に添付の講演申込用紙に必要事項を記入の上、講演前刷原稿とともにお申し込み下さい。
7. 申込用紙の記載について
 - 1) 申込用紙は(A),(B)とも太字欄をのぞき楷書でご記入下さい。(申込用紙は、本誌会告末に綴込んであります)
 - 2) プログラム編成上の参考といたしますので、「講演分類欄」に講演内容が、下記講演分類のいずれに該当するか、番号でご記入下さい。
 - 3) 講演者には氏名の前に○印を、また研究者氏名にはローマ字読みを付して下さい。
 - 4) 講演要旨は、情報管理のための文献検索カードに利用いたしますので講演内容が明確に把握できるようおまとめ下さい。
8. 申込みの受理 下記の申し込みは理由のいかんにかかわらず、受付はいたしませんので十分ご注意下さい。
 - 1) 所定の用紙以外の用紙を用いた申込
 - 2) 必要事項が記入されていない申込
 - 3) 単なる書簡または葉書による申込ならびに電報、電話による申込
 - 4) 文字が読みづらいもの、印刷効果上不適当なものと認められるもの
9. 申込締切日 昭和52年1月14日(金)17時着信まで
申込用紙、講演前刷原稿を同時提出のこと。
10. 申込先 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館3階
(社) 日本鉄鋼協会 編集課

講演分類

製		鉄				製 鋼					加 工			
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	
製鉄基礎	原料・燃料	高炉製鉄	還元鉄製造	フェロアロイ	製鉄耐火物	製鋼原料	製鋼基礎	溶解・精錬	造塊	製鋼耐火物	塑性加工	熱処理	表面処理・防食	
加 工			材 料											
15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25				
鑄造	粉末冶金	溶接	基礎物性	組織	性質	分析	試験・検査技術	計測・制御	管理環境・情報	その他				

原稿用紙、合本ファイル有償頒布について

- 原稿用紙（鉄と鋼用本文用紙 50 枚・図面用紙 16 枚綴）
 - 1冊 300円（〒 160円）
 - 2～3冊 （〒 200円）
- 図面用紙（鉄と鋼用 50 枚綴）
 - 1冊 250円（〒 160円）
 - 2～3冊 （〒 200円）
- 講演前刷用原稿用紙
頒布料金 1枚 5円（頒布の枚数は下記のとおり限定いたします。なお料金は送料込）
 - 5枚 225円, 20枚 400円, 40枚 500円
 - 10枚 250円, 25枚 425円, 50枚 850円
 - 15枚 275円, 30枚 450円
 100 枚以上は小包となりますので係までお問い合わせ下さい。
- 「鉄と鋼」用合本ファイル
 - 1冊 250円（送料別）
- 申込方法 ①原稿用紙の種類、②枚数、③送付先明記のうえ、④料金（切手でも可）を添えお申し込み下さい。
- 申込先 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3階 日本鉄鋼協会 庶務課

昭和 52 年秋季 (第 94 回) 講演大会 討論会

討論講演募集のお知らせ

昭和 52 年秋季 (第 94 回) 講演大会に開催されます討論会講演を下記により募集いたしますので奮つてご応募下さるようご案内いたします。

1. 討論会テーマ

1) 高炉内におけるアルカリの挙動 座長 長井 保

高炉に装入される鉱石・コークスには、微量ながら Na-K を主体とするアルカリ金属が含まれている。その装入量は、銑鉄原単位からみれば数 kg/t のオーダーではあるものの、高炉炉内の温度条件からかなりの量が炉内に滞留し、循環していると推定されている。そして、それらアルカリは、炉内でコークスや炉壁レンガなどに悪影響を及ぼしていることが論じられている。最近では、カナダ・ハミルトンの高炉内アルカリ金属の挙動に関する国際会議などがある。

この討論会では、高炉の解体調査等を通じて得られた知見にもとづいてアルカリの炉内循環プロセスの解明を、また、コークス性状研究を通じて得られたアルカリの影響などについて論文発表と活発な議論を展開したい。さらに、可能ならば炉壁耐火物に対するアルカリの影響についても討論したい。

2) 転炉の計算機制御 座長 有賀 正三

転炉の計算機制御は導入開始以来 10 年以上を経過し、転炉操業の中に完全に常識化されています。しかし近年の品質の一層の向上・高級化、作業の自動化・省力化、更には省資源・省エネルギー等の切迫したニーズの中に飛躍的な精度向上、新たな機能の拡充が必要であります。今回は転炉工程のプロセス制御機能を中心に、新しいニーズに対しての基礎的操業解析から検出端の開発まで含めまして、その実施内容と成果並びに問題点について討論し、今後の方向を明確にしたいと思えます。

計算機制御に関する御意見も含めまして卒直に御応募下さい。

3) 圧延における形状制御 座長 木原 諒二

熱間圧延板 (厚板・帯鋼) 冷間圧延板を製造する際に生ずる、中伸び、端伸び、クオタ・バックルなどの形状不良を防止する制御技術は今日かなり進歩している。形状不良が生ずる原因の解析的研究、解析的研究を基礎にした形状制御技術のシステム・アップの紹介、各種圧延機の力学的特性とそれにふさわしい形状制御用のアクチュエータの開発の研究、形状制御を簡略化することを目的とした新型式の圧延機の紹介、などについての討論を期待している。

4) 高純度フェライト系ステンレス鋼の問題点 座長 伊藤 伍郎

合金中の不純物を極度に低くするといままでえられなかつた様な良い性質を示すことがいくつかの合金についてわかつて来ている。ステンレス鋼もその一つであるが精錬法がむづかしい。しかし昭和 52 年春季大会の討論会にも企画されているようにいくつかの新らしい方法が提案されており、その実用化も遠くない。本テーマでは高純度ステンレス鋼のうちでもとくに最近成果のあがつて来ているフェライト系のものについて、精錬から加工および性質までの問題を検討して、今後の開発の方向を探らうとするもので、広い範囲の方々のご発表、ご参加を期待します。

5) 圧力容器用極厚鋼材の製造と問題点 座長 雑賀 喜規

近来、原子炉および化学プラント用圧力容器鋼材の極厚化、大型化の要求にともない鋼材の偏析欠陥対策、熱処理と諸機械的特性ならびに溶接性など材料に対する課題が多くなっている。そこで、主として次の課題の範囲において広く意見の交換を希望します。

- 1) 真空脱ガス、ESR などの溶製法
- 2) 熱処理と機械的性質 (常温・高温特性および破壊靱性)
- 3) 溶接性および溶接部の機械的性質
- 4) 長時間加熱脆化など

2. 申込締切日 昭和 52 年 2 月 15 日 (火)

3. 申込方法 「鉄と鋼」本誌クリーム頁末に綴込みの申込用紙に必要事項ならびに申込書裏面に 400 字程度の講演のアブストラクトをお書きのうえお申し込み下さい。

4. 討論講演の採否 討論講演としての採否は、前記ご提出のアブストラクトにより検討のうえ決めさせていただきますので、あらかじめお含みおき下さい。

5. 講演前刷 昭和 52 年 5 月 16 日 (月)

原稿締切日 討論講演として採用された方は、本会所定のオフセット原稿用紙 4 枚以内 (表、図、写真を含

- め6,700字)に黒インクまたは墨をもちいて楷書で明りようにお書きのうえ、ご提出下さい。
 6. 講演テーマ・講演者の発表 「鉄と鋼」第63年第7号(昭和52年7月号)にて発表いたします。
 7. 講演内容の発表 「鉄と鋼」第63年第8号(8月号)に講演内容を掲載いたします。
 8. 討論質問の公募締切日 昭和52年9月末日
 前記2号掲載の講演内容をご覧のうえ、質問対象講演を明記のうえ、本会編集課宛ご送付下さるようお願いいたします。
 申込先:100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館3階
 日本鉄鋼協会編集課 TEL 03-279-6021 (代)

会費納入についてのお願い

昭和52年分会費の納入期がまいりました。本会の事業は会費を主な財源として行なわれますので、会費は毎年12月に1年分を前納していただくことになっております。別送の郵便振替用紙にてお払込み下さいますようお願いいたします。

会員団体所属の会員にあつては幹事宛お支払い下さい。

記

	会費年額	入会金
正会員	7,000円 (従前 5,400円)	700円 (従前 600円)
学生会員	2,000円 (〃 2,700円)	0円 (〃 300円)
外国会員	6,000円 変更なし	

宛先 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館階
 社団法人 日本鉄鋼協会

お知らせ

会費および入会金の変更について

昭和51年10月2日開催の臨時総会において、上記のとおり変更になり、明52年1月から適用することになりました。

「鉄と鋼」特集号原稿募集のお知らせ

テーマ: 特殊精錬法

原稿締切 昭和52年2月24日(木)

鋼材の品質に対する要求が高まるにつれて、これに応えるように色々な特殊精錬法が開発され改良されてまいりました。そうしたすばらしい技術の進歩の後をトレースし、総括するとともに明日の進歩の手がかりを得るために、特集号を編集することになりました。

つきましては、下記の内容に関する論文あるいは技術報告を多数ご投稿下さいますようご案内申し上げます。

記

1. 内 容 1. 真空脱ガス法 2. 取鍋精錬法 3. AOD法 4. 取鍋合金添加法
5. 真空溶解法 6. エレクトロスラグ溶解法 7. その他の特殊溶解法
2. 原稿締切日 昭和52年2月24日(木)
3. 原稿枚数 (論文) 本会所定の原稿用紙(450字詰) 図, 表, 写真を含め 50枚以内(刷り上り10頁以内)
(技術報告) 本会所定の原稿用紙 図, 表, 写真を含め 35枚以内(刷り上り7頁以内)
4. 発 行 鉄と鋼, 第63年第13号(昭和52年11月号)
5. 原稿送付先 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館3階
日本鉄鋼協会編集課 (電 03-279-6021)

(投稿に当つては、原稿表紙に“特殊精錬法特集号”と朱書き下さるようお願いいたします)

第 43 回西山記念技術講座開催のお知らせ

——鉄鋼業におけるスラグの発生とその利用について——

主催 日本鉄鋼協会

第 43 回西山記念技術講座を下記のとおり開催いたしますので多数ご来聴下さいますようご案内いたします。

I 期 日 昭和 52 年 2 月 15 日 (火), 16 日 (水)

農協ホール (千代田区大手町 1-8-3 農協ビル 9 階 TEL 03-279-0311)

II 演題ならびに講師

第 1 日 (15 日)

10:00~11:30	製鉄におけるスラグの発生	住友金属工業(株)本社	大竹康元
12:30~14:00	製鋼におけるスラグの発生とその再利用	川崎製鉄(株)技術研究所	岸高寿夫
14:00~15:40	スラグバラスの特性とその利用	日本スラグ協会	沼澄夫

第 2 日 (16 日)

10:00~11:30	水滓処理技術の現状	新日本製鉄(株)本社	宮入英彦
12:30~14:00	スラグのセメント原料としての利用	東京工業大学工学部	近藤連一
14:10~15:40	コンクリート関連材料としてのスラグおよびスラグセメント	東京大学工学部	岸谷孝一

III 講演内容

1. 製鉄におけるスラグの発生 住友金属工業(株) 大竹康元

最近の製鉄技術の進歩は内容積 5000m³ 級の超巨大高炉の稼働となつた。鉄鉄生産量 1 万 t / 日に対応する高炉スラグは 3000 t / 日の発生となる。安定成長に向つての経済環境の変化により、この年間発生量約 5000 万 t の副生物の高炉スラグの従来用途が漸次減少の傾向にある。この高炉スラグ資源の有効活用については、今後新しい用途開発に進まない、その処分が問題となる。本稿においては、高炉スラグの発生状況、高炉スラグの生成プロセスと役割原料条件と高炉スラグ、高炉操業と高炉スラグ、低スラグ比と脱硫などについて述べる。

2. 製鋼におけるスラグの発生とその再利用 川崎製鉄(株) 岸高寿夫

鋼の精錬過程において発生する製鋼スラグの処理は現在大きな問題となつている。ここでは主として LD 転炉について、製鋼スラグの発生量およびその成分の現状、また精錬過程において造滓、脱リン、脱硫などの反応が円滑に進むために必要なスラグの量および成分の限界値について述べる。さらに製鋼スラグの高炉への再利用の問題および将来の低スラグ製鉄法についても言及したい。

3. スラグバラスの特性とその利用 日本スラグ協会 沼澄夫

我国の基幹産業である鉄鋼業の発展に比例して、副生する高炉スラグ、転炉スラグ等の量も龐大な量にのぼつてくる。従来はこれらスラグもいわゆる産業廃棄物として安易に埋立投棄等に振り向けられていたが、我国の国策である自然環境の保護、省資源省エネルギーの見地からみてもこれらスラグは有効利用、再資源化すべき貴重な国内資源であることが最近各界に認識されてきた。まず一般的なスラグについての概要を説明し、特に高炉スラグについての特性、用途等について述べてみたい。

4. 水滓処理技術の現状 新日本製鉄(株) 宮入英彦

省資源、省エネルギーの見地から鉄鋼各社では鉍滓の高度利用に意欲的と取り込んでいるが、本講においては高炉スラグを水で急冷処理して製造される水砕スラグの処理技術の現状について概説する。

まず水砕スラグの物理、化学的特性を述べ次いで水砕スラグの製造技術と製造設備について概説し、吹製(粒状化)技術と水砕スラグの品質の関係にふれ最後に利用面とその問題点について述べる。結びとして今後の方向についてもふれたいと考えている。

5. スラグのセメント原料としての利用 東京工業大学 近藤連一

高炉スラグと転炉スラグはそれぞれポルトランドセメントクリンカーの原料として粘土あるいは鉄分とシリカの一部を置換して用いられており、石灰石配合量を減少出来る。これらスラグの配合量を特に高めるとフェライトセメントが得られ、著しい省資源、省エネルギーが達せられる。

高炉水砕スラグは潜在水硬性をもち、ポルトランドセメントクリンカーとせつこうを配合し高炉セメントが得られる。ポルトランドセメントに 20~30% のスラグの配合を許す国もある。ことにスラグ含有量の高い高硫酸塩スラグセメントは廃棄物の再利用と省エネルギーの面でも注目される。

6. コンクリート関連材料としてのスラグおよびスラグセメント 東京大学 岸谷孝一

スラグはコンクリート関連材料としてその価値を高めつつある。単なる副産品の処理といった安易な利用よりも、より高度な使い方を展開すべきである。本題では、スラグの骨材として用いる場合の施工上の問題点と対策、スラグコンクリートの利点欠点、高炉セメントを中心としたスラグセメントの現状と展望、その用法と特性について言及する。

IV 聴講無料 (事前の申込みは必要ありません)

V テキスト代 3000 円

VI 問合せ先 日本鉄鋼協会編集課 〒100 千代田区大手町 1-9-4 TEL 03-279-6021

International Symposium
Influence of Metallurgy on Machinability of Steel
論文募集のお知らせ

本会は米国金属学会 (ASM) と合同で標記シンポジウムを開催することになりました。下記要項ご覧のうえ多数論文発表にご応募下さるようご案内いたします。

記

1. 期 日 **Symposium** 昭和 52 年 9 月 26 日(月), 27 日(火)
工場見学 9 月 28 日(水), 29 日(木), 30 日(金)
2. 会 場 経団連会館 東京都千代田区大手町 1-9-4
3. 内 容 **Scope** The scope of this International Symposium will be directed towards the influence of metallurgy on machinability of steel. The objective of the Symposium is to bring together worldwide R & D in this area for the improvement of the machinability of steel.

Research, development as well as application papers in the following general areas are invited:

Assessment of machinability of steel as a function of metallurgical factors.

Improvement of the machinability of steel by means of alloying additions, microstructural changes, process control, etc.

Influence of steel making processes, casting, rolling, cold drawing and heat treatment on the machinability of steels.

Machining performance of free-machining steels.

Interrelationships between mechanical properties and machinability of steels.

Flow, fracture and deformation related to material removal.

Variability in the machinability of steels: heat-to-heat, ingot-to-ingot, within an ingot, etc.

Influence of machining operations (e. g. turning, drilling, milling, grinding, etc.) on machinability of steels.

Metallurgical damages and alterations caused by machining operations of steel.

Official Language: English

Procedure for Submitting Papers: You and/or your recommended authors are invited to submit a paper for the Symposium as follows:

Abstract Due: December 1, 1976. Send approximately 500 words abstract including object, procedure and results with their implication to the Secretariat, ISIJ/ASM International Symposium, The Iron and Steel Institute of Japan, Keidanren Kaikan (3rd floor), 9-4 Otemachi 1-chome, Chiyoda-ku, Tokyo 100, Japan.

You will be informed of acceptance of your abstract by **March 1, 1977**, and required for preparation of the Final Manuscript.

Final Manuscript Due: July 1, 1977. Symposium Proceedings will be available in Tokyo by September 12, 1977.

「鉄と鋼」寄稿規程一部変更のお知らせ

会誌「鉄と鋼」の寄稿規程の一部が変更されましたのでお知らせいたします。

改訂された主な内容は次の通りです。

	旧 規 定	新 規 定
図原稿の書き方	文字、記号を除き執筆者が墨入れする。	文字、記号も含め図全体を執筆者が墨入れ (トレース) する
引用文献の著者名の書き方	著者名	著者氏名
単 位	MKS または CGS 単位等を用いる	SI, MKS または CGS 単位等を用いる

以上、一部変更され、昭和 51 年 12 月投稿原稿より実施いたしました。寄稿規程は、第 62 年、第 12 号、第 13 号会告末に掲載いたしております。

東北支部
湯川記念講演会案内

日時 昭和51年12月8日(水) 14:00
場所 東北大学工学部金属系第一講義室
(仙台市荒巻字青葉)
演題 鉄鋼技術の展望
新日本製鉄(株)常務取締役 大竹 正君

金属関係六学協会東北支部
連合シンポジウム案内

開催日時 昭和51年12月6日(月) 13:00~17:00
会場 (予定) 東北大学工学部金属系三学科講堂
仙台市荒巻字青葉

主 題 「複合材料の現状と将来」

講演題目および講師

- (1) 複合材料の現状と将来(仮題)
東北大学金属材料研究所教授 和泉 修氏
 - (2) 繊維強化型金属複合材料の現状と将来
金属材料技術研究所 渡辺 治氏
 - (3) 実用化されている複合材料の動向
日立電線株式会社 山路賢吉氏
- 当番学会 日本鉄鋼協会東北支部
連絡先 東北大学選鉱製錬研究所
徳田 昌 則
0222-27-6200 (内) 2888

鉄鋼オートメーションシンポジウム次第書

主催：日本自動制御協会 協賛：計測自動制御学会，日本鉄鋼協会

日時 昭和52年1月26日(水)・27日(木)
会場 大阪科学技術センター 401号室
(大阪市西区うつぼ 1-118, 06-443-5321)

交 通

・地下鉄：大阪駅方面，なんば方面より四ツ橋線本町下車 北へ徒歩5分

・京阪電鉄：淀屋橋下車 南西へ徒歩15分

特別講演 1件(1月26日午後1時より)

一般講演 14件

プログラム 講演時間40分(討論時間含む)

1月26日(水)

10:00 開会の辞

10:10 A1 鉄鋼工業における計算機制御のあり方
と問題点 京大工 小門 純一

A2 原料ヤードの計算制御
鋼管 山本 倫久・笹生 宏明
高崎 靖人・松村勝己○・吉田 雅彦

A3 鉄鋼圧延プロセスにおける情報処理
システム(DFWシステム)
日立 久保 岳明・富樫 伸行○
谷口 美嗣

12:10 昼 休

13:00 (特別講演)

システム科学と鉄鋼産業

京大工 榎木 義一

13:50 休 憩

14:00 B1 高炉の計算機制御システム

川 鉄 長井 保・栗田 邦夫
田宮 稔士・岩村 忠昭○

B2 製鋼工場の計算機制御

川 鉄 大島 真・小川 正勝○
三浦 洋・増田 康男

15:20 休 憩

15:30 C1 制御理論の圧延プロセス自動化への応用
住 金 美坂 佳助・川野 晴雄○
近藤 勝也・高橋 亮一

15:50 C2 ゼンジマーミルの計算機制御

新日鉄 川口 忠雄・片山 健史○
中北 輝雄

1月27日(木)

10:00 D1 ハイブリッド計算機システムの応用例
(調査報告)

大阪府立大学工学部 津村 俊弘

D2 形鋼工場の最適鋸断制御システム

鋼管 山本 倫久・黒崎 歩夫
鎌田 正誠・倉石 達夫○
斎藤 森生

D3 鉄鋼圧延プロセスへのマイクロ

コンピュータ応用

東芝電気 角 忠夫・今多 一
田村 昇○

12:00 昼 休

13:00 E1 コールドタンデムミルの制御における
入力板厚変動情報の利用に関する研究

早大理工 示村悦二郎・内田 健康
山中 一雄・菅野 聡○

E2 冷間圧延機におけるオンライン動特性
推定

三菱電機 外山 守城・小寺 嘉一

14:20 休 憩

14:30 F1 GMDHによる製鉄所プロセスモデル
の同定

神 鋼 森田 徹・小西 正躬
浅田 幸夫・能勢 和夫

F2 各種計測法とその自動制御への応用例

住 金 白岩 俊男・広島 竜夫
田村 洋一・小林 純夫○

参 加 料 (論文集一冊含む)

会員 4,500円 非会員 6,000円

学生 3,000円

論文集のみ 会員 1,500円 非会員 2,000円

定 員 100名(満員になり次第締め切ります)。

参加申込方法

参加者名，所属，連絡先住所，所属学会名をご明記の上，下記宛お申し込み下さい。

(参加料は当日払いでお願い致します)

〒606 京都市左京区山端一丁目町1

日本自動制御協会

「鉄鋼オートメーションシンポジウム」係

TEL (075) 711-6601・701-8893

昭和 52 年度塑性加工春季講演会 (第 8 回)

共催：日本塑性加工学会，日本機械学会
 協賛：日本鉄鋼協会，ほか
 開催日：昭和 52 年 5 月 19 日 (木)，20 日 (金)，21 日 (土)
 会場：電気通信大学
 (調布市調布ヶ丘 1-5-1 電話 0424-83-2161)

講演申込締切：昭和 52 年 2 月 5 日 (土)
 講演申込要領：はがき大の用紙に横書きで「昭和52年度
 塑性加工春季講演会申込」と標記し，下
 記の要領でお申し込みください。

記

1. 題目及び分野別番号，2. 概要 (50字以内)，
 3. 所要時間 (20分以内)，ただし当学会で調整する
 ことがあります。4. O.H プロジェクターの有無，5.
 所属学会名，会員資格，(連名の場合は講演者に * 印
 を記すこと)，6. 勤務先，7. 通信先
 申込先：日本塑性加工学会 (〒106 東京都港区六本木
 5-2-5 トリカツビル内)

講演論文集：オフセット印刷，1292字詰原稿用紙 4 枚
 (図表を含む)，刷上り 4 ページ相当，詳細
 執筆要領，原稿用紙は後日講演者にお送り
 いたします。

論文集原稿締切：昭和 52 年 3 月 12 日 (土)
 分野別番号：1. 理論及び弾塑性解析，2. 計測及び材料
 試験，3. 材料及び挙動，4. 工具，5. 潤
 滑，6. 加工機械，7. 圧延，8. 押出し，
 9. 鍛造，10. 引抜き，11. せん断，12.
 板材成形，13. 転造，14. 矯正，15. 表面
 加工，16. 高速加工，17. 高圧加工，18.
 接合，19. プラスチック，20. ロール成形
 21. スピニング，22. その他

第 6 回内部摩擦超音波減衰国際会議

主催 内部摩擦超音波減衰国際会議組織委員会
 後援 文部省，IUPAC (予定)
 日時 1977 年 7 月 4 日～7 月 7 日
 場所 日本都市センター (平河町)，東京
 内容

本会議は結晶あるいは非晶質固体での力学発振動エネ
 ルギーの消散機構についての発表・討論を主な目的と
 します。主なるトピックスとして電子，フォノン，相
 転移，磁気的効果，格子欠陥等の関連する内部摩擦，
 超音波減衰及び弾性的性質についての話題がとりあげ
 られ，更にフォノン，エコー，弾性表面波，アコース
 ティックエミッション等の新しい分野，また種々の機械
 的電気的材料の開発，非破壊検査の基礎等についての
 討議が含まれます。また本会議では種々のテーマにつ
 いての解説的な招待講演も行なわれます。

本会議は固体物理，材料科学分野の広範な研究者に対
 し興味ある話題を多数提起するものと思われま

す。連絡先 〒162 東京都新宿区神楽坂 1-3
 東京理科大学工学部 橋口隆吉教授

第 26 回国際純正応用化学連合化学会議
 の 2nd Circular の配布ご案内

標記国際会議は，化学および化学工業 (医・農関係を
 含む) の全般に亘る学術的な研究発表講演会で，明年 9
 月 4 日から 10 日まで，東京赤坂地の 20 余会場で開催
 されます。すでに世界各国の一流科学者百余名の招待が
 決り，その演題を掲載し，一般研究発表申込用紙等を添
 えた 2nd Circular ができました。

未登録の方で 2nd Circular の入手ご希望の方は，200
 円切手同封のうえ次にお申込み下さい。

101-91 神田郵便局私書箱 56 号 IUPAC 係
 本件につきお問合わせは日本化学会 (03-232-6161) へ

ESR 文献集の有償頒布について

鉄鋼基礎共同研究会「特殊精錬部会の第 6 分科会は第 1～第 5 分科会の ESR 研究活動を円滑に実施するための参
 考資料，ならびに ESR に関係する研究者および現場技術者の卒業指針を目的に，ESR に関する国際シンポジウム
 学協会誌および専門誌に発表された海外および国内の論文資料を可能な限り収集してまいりました。この文献集の内
 容は収集した文献，資料をそれぞれに掲載してある図，表，写真を主体に分類整理し，欧文および邦文別に文献集と
 して編集したのです。

昨年第 1 集を発刊致しましたが今回第 2 集も合わせて広く皆様方に御利用頂いたため下記要領で頒布することになり
 ました。ここに会員の皆様にお知らせ致します。

記

	第 1 集	第 2 集
1. 調査期間	1950年～1973年	第 1 集の未収録分と 1974, 1975 年
2. 文献件数	{ 欧文 492 件 邦文 140 件 付録 一	{ 219 件 51 件 { 単行本 4 件 { フラックスの性質関係 116 件
3. 価 格	2,000 円	1,000 円
4. 申込方法	書名，部数，送付先を明記のうえ代金を添えて現金書留にてお申込み下さい。	
5. 申 込 先	100 東京都千代田区大手町経団連会館 3 階 日本鉄鋼協会技術部 (03-279-6021)	

通商産業省が実施する昭和 51 年工業統計調査および工業実態基本調査に協力方お願い

日本鉄鋼協会

通商産業省がわが国工業の実態を明らかにすることを目的として毎年実施している工業統計調査は本年も12月31日現在で実施されます。また本年は、5年ごとに実施している工業実態基本調査の実施年に当たりますのでこの調査も同時に行なわれます。何れも調査対象が膨大な数に上るため円滑な実施のためには事業所各位のご理解が必要であるとして同省調査統計部から本会に対し調査趣旨の周知について協力方依頼がありました。

つきましては関係事業所におかれましては下記要領で行なわれる調査に協力されるようお願いいたします。

記

昭和 51 年工業統計調査及び

第 5 回工業実態基本調査の実施について

○通商産業省では12月31日現在で、我が国すべての製造工場や、製造業の本社・本店を対象とした「工業統計調査」と、全国の製造業に属する企業のうち10万余りの企業を対象とした「第5回工業実態基本調査」を実

施します。

○年末年始にかけて調査員の方が製造業属する工場や、本社・本店にお伺いすることになりますので、お忙しいところ恐縮ですが、「工業統計調査」は勿論のこと「工業実態基本調査」の対象となられた企業は、特別な御配慮をいただき調査員の方に快く御協力くださるようお願いいたします。

○「工業統計調査」は我が国工業の実態を明らかにすることを目的に毎年実施されており、「工業実態基本調査」は、中小企業の実態を明らかにし、中小企業対策の基礎資料を作る目的で過去4回実施しております。

○「工業統計調査」と「工業実態基本調査」の調査結果は、これからの経済を安定して発展させるための国の施策の重要な基礎資料となります。

特に「工業実態基本調査結果」は中小企業に対する税制、金融制度の改善、下請業者の保護など、直接中小企業の経営に関係のある政策、立案の基礎資料となります。

○提出された調査票は、統計上の目的だけに使われます。申告者に利害関係を生ずるような目的には絶対に使用されませんので、調査票にはぜひありのままを御記入下さい。

ESR 文献カード第 2 集の有償頒布について

鉄鋼基礎共同研究会「特殊精錬部会の第6分科会は第1～第5分科会のESR研究活動を円滑に実施するための参考資料、ならびにESRに関係する研究者および現場技術者の作業指針を目的に、ESRに関する国際シンポジウム学協会誌および専門誌に発表された海外および国内の論文資料を可能な限り収集してまいりました。

そして、この度文献集第2集を発刊いたしました。調査の便を計るために第2集収録分の文献カードを作成致しました。

文献カードの特長は

(1) 図表をすべて日本文に要訳し、文献内容の概略を把握出来る。

(2) 所定の分類項目で分類穿孔してあり、項目別の索引が可能である。

等多くの特長を有し、利用法の1例としてESR材の疲労データを手入したい場合には、ソーテングホールNo. 94で文献カード21枚を抜き、カードに記載されている図表の内容を調査し、文献を手入すれば現在迄に公表されているESR材の疲労データがわかります。

なお、文献カードは印刷の部数によりコストが大幅に異なりますので、予約制をとつていますが、今回の機会を外しますと追加注文により印刷する事が出来ません。従つて今回出来るだけ多くの大学、研究所、会社で購入されることをお奨めします。

1. 概算頒布価格 15,000 円/268 枚 申込み部数によつて異なります。

2. 申込要領 ハガキ、または手紙で書名、部数、送付先を明記のうえ、下記までお申込み下さい。

3. 申込先 100 東京都千代田区大手町 1-9-4
経団連会館 3 階 日本鉄鋼協会技術部 (03-279-6021)

4. 備考 頒布希望部数が僅少の場合は非常にコスト高になりますので印刷を中止する事があります。その場合は頒布希望をされた各位に別途連絡致します。

5. 追記 ESR文献カードの第1集分が4部在庫がありますのでお知らせします。
価格は 30,000 円/662 枚

日本学術会議第 11 期会員選挙について

明年 11 月 25 日に日本学術会議第 11 期会員選挙が行われます。日本学術会議会員の選挙において、選挙し、又は選挙されるためには、日本学術会議事務局に備えた有権者名簿に登録されなければなりません。したがって、選挙事務の第 1 段階として、登録希望者に登録を求める手続きを的確に行つていただく必要があります。

つきましては、本会会員で有権者となる資格があり有権者となることを希望する方は下記ご参照の上必要な手続をおとり下さい。

記

1. 前回 (第 10 期, 昭和 49 年) の選挙の有権者の方へ

前回の選挙の有権者については、前回提出のカードにより、本年資格審査が行われました。これに関し、日本学術会議中央選挙管理会から登録用カードを再提出されるよう通知のあつた方以外の方は、すべて引き続き、有権者名簿に登録されますから、改めて登録用カードを提出する必はありません。

ただし、前回の登録における所属以外の部又は専門で今回の登録を求めようとする方は、登録のしなおしをする必要がありますから、様式第 2 の「所属部又は専門変更届」により、登録用カード用紙を請求してください。

(様式略)

2. 今回 (第 11 期, 昭和 52 年) の選挙に有権者となることを希望される方へ

(1) 今回の選挙に新たに有権者となることを希望される方で、大学・研究機関等に所属される方は、中央選挙管理会から大学・研究機関等に対して「登録用カード用紙請求者名簿」の提出方を依頼いたしましたから、なるべく所属大学・研究機関等から提出の名簿によつて登録用カード用紙を請求してください。

なお、名簿によつて請求される場合は個人からの請求は不必要ですから、大学・研究機関等と個人の両方から重複して請求しないように、特に注意してください。

(2) 新たに有権者となることを希望される方で、大学・研究機関等に所属しているが大学・研究機関等から提出した「登録用カード用紙請求者名簿」にカード用紙請求者として氏名を記載されなかつた方は、様式第 1 により個人で登録用カード用紙を請求してください。

3. 登録用カード用紙の送付及び提出について

登録用カード用紙は、請求あり次第「登録用カード用紙請求者名簿」提出の大学・研究機関等に対しては、一括して送付します。また、個人で請求の場合は、直接、請求人あてに送付します。

その際、第 11 期会員選挙説明書及び登録用カード用紙提出用の封筒を同封いたします。登録カード用紙に所要の事項を記入の際は、選挙説明書の「登録用カード記載上の注意」を十分お読みになつたうえで記入してください。また、登録用カード提出の場合は、提出用の封筒を使用してください。

第 11 期会員選挙のための登録用カードの受付期限は、**昭和 52 年 3 月 31 日**ですから、同日までに中央選挙管理会に必着するように提出してください。

なお昭和 52 年 4 月 1 日以降に到着した登録用カードは、次回 (第 12 期, 昭和 55 年) 会員選挙の登録用カードとして中央選挙管理会で保管します。

4. 有権者等の異動の届出について

有権者は氏名、住所(住居表示の変更を含む)、本籍、勤務機関及び職名、勤務地等のいずれかに異動があつたとき又は博士の学位を取得した場合にはそのつどすみやかに、様式第 3 により、「有権者異動届」を中央選挙管理会に提出してください。これを怠ると有権者の権利を行使できないことがあります。(様式略)

また、新たに有権者となることを希望される方で、登録用カードを提出し、その後上記の異動があつた場合も、異動の届を励行してください。

なお、有権者が死亡した場合は、その旨を遺族又は関係者から届け出てください。

問合せ・提出先

〒106 東京都港区六本木 7 丁目 22 番 34 号 日本学術会議中央選挙管理会
電話 03-403-6291

様式第 1 (B 5 判またははがき)

登録用カード用紙請求書	
(ふりがな)	
氏名	④
住所(郵便番号)	